せいそう労働者

川崎市職員労働組合
清掃支部
発　行
川崎市川崎区東田町5-1
市労連会館4階
電　話　044(222)5906
発行責任者　渋谷　勝美
編集責任者　田中　慎吾

清掃支部ホームページ
ＱＲコード

団体交渉行われ、課題解決に両者合意。
良き清掃事業に向け取り組み強化

２０２３年６月７日、第３庁舎環境局会議室にて、清掃支部と環境局による団体交渉が行われた。三田村環境局長からあいさつがあり、支部役員をはじめ、現場で働く職員に対し様々な苦労をかけながらも、川崎市の清掃行政を守っていることに関し感謝の気持ちを述べ、今も続くコロナ感染症対策や年々発生頻度を増す災害対応など様々な課題に取り組む姿勢を強調した。

今年度の重要な取り組みとして、堤根処理センターの休止と橘処理センターの稼働開始が挙げられ、意見交換を通じた課題解決に取り組む意欲も示した。

一方、渋谷支部長は新橘処理センターの施行遅延に理解を示し、機械操作員の募集再開の重要性を強調した。募集再開に至る背景に、本庁で働く職員や組合の知恵と努力に感謝し、今後の募集に注力する考えを示した。また、直営の職員が災害に対応できる強みを強調し、災害対策への取り組みを訴えた。支部と局が連携し、現場で働く職員と共に清掃事業を円滑に進めるよう要請した。団体交渉は意義あるものとなり、今後の活動に寄与することが期待される。

最新技術にふれる
自治体政策部

５月24日から26日の３日間、東京ビッグサイトにおいて「２０２３ＮＥＷ環境展／２０２３地球温暖化防止展」が開催され、その中で５月24日（水）に清掃支部自治体政策部の活動として各分会から９名、執行部から３名の計12名が参集し調査見学を行った。「ＳＤＧｓ」の推進にむけた環境汚染問題や地球温暖化問題の解決は避けて通れない課題であり、とりわけ資源有効利用や新エネルギー・省エネルギーの推進、ＣＯ２排出削減技術の活用は、環境・温暖化対策にとって最重要の取り組みと位置づけられている。そうした取り組みの中で、私たちの日々の作業で使用している作業車や処理施設において新しい技術がどのように取り込まれていくのかを調査学習することが今回の目的であった。ＮＥＷ環境展では、資源循環を効率的に進めるためのＡＩ選別ロボットや光学選別機等最新の技術が並び、さらに、廃棄物収集運搬・管理のＤＸを支援するシステムも出展されていた。また、地球温暖化防止展では、脱炭素・ＳＤＧｓの推進に向けた新エネ・省エネ機器、猛暑対策グッズなどが展示され、今後導入されていくことも予想されるＥＶ車も展示されていた。省エネ関連では冷風機、遮熱材、燃焼効率の改善、施設全体のエネルギー削減等、再エネ関連では小水力発電、バイナリー発電、バイオマス燃料、地中熱利用などが出展されていた。自治体政策部では、毎年新しい技術によって新しい製品が開発される中で常に最新の情報を調査し各部長と共有している。

▲日報ビジネス株式会社主催　来場者数約９万人

隣にいる仲間を想う
～在日外国人と日本人は国籍・民族を超えていけるか～
第42回　林　慶一

隣にいる仲間を想う　林　慶一

人と本は国籍・民族を超えて

「瞳を見て本

を見ながら調を決め

準に、最も光が当たる部）を基

キャ　の　日は動の新

車が始まる　業だ　題に

動　の　の寒を来

ヤ　ぬ　業だ風た

頃の　は轟

は　今は華の情

熱を徐々に取り戻す

足　林　ヤ　そ

て　年　ぬ　輩や間

と言う　い　カ

色を変ぬ　の

を見ながら調を決め

ん自は輩　だ食に

親は離ぬ　が並ぶ両

話ぬ　年ぬ

家に鯛が出

の鯛　を持つ人が

る本　性が

と呼ぶ　ヌも

知だ　ヌの鏡で

は年が初め会た朝

鮮と本の本の人だ

だ度、年に聞ぬ

た　年は合

を本だ思ぬ鯛

人だ思ぬ

考鯛

は完に鯛だ

も親の案の業）

に啓鯛

半々鯛

本ぎ

笑）「ぬ

ヌ

は輩

は鯛は慣は本

人に近い鯛は住だ

結、鯛にぬ性

は言鯛

ヌ合の中

でサ本に戻き

鯛　振

り返る端な持ぬ

ま本に戻鯛

思う最ぬ

枕を持っ

鯛と

う言い方ぬ

は年ぬ

は蓋な鯛ぬ

ぬ鯛ぬ慣も

ぬ考ぬ

ぬ弁」ぬ

ぬ合鯛ポ

ナを見ぬ結ぬ

倒に本の確が高ぬ

生鯛

は本ぬ

ハ

ヌ

レが持ぬ人ぬ

義鯛本

鯛ぬ親ぬ

か

直営をささえる

仲間達（381）

臨港分会

××××××××

①年　齢：27歳
②入庁年度：2020年度
③分会役：教宣部長
④職　種：機械職
⑤業務内容：施設維持管理に係る委託業者との調整など
⑥趣味、最近はまっている事：映画鑑賞、ゲーム

技術係の××××と申します。4月より浮島処理センターへ異動となり、また臨港分会の教宣部長を拝命する運びとなりました。今回が入庁して初めての異動であり、今までの本庁勤務だったのが現場での勤務となり、職場の環境が大きく変わりました。まだまだ仕事内容的にも環境的にも慣れない部分も多く、毎日てんやわんやしています。おかげで生活習慣が大きく変わり、起床時間も今までよりだいぶ早くなりました。そのため、私はよくBSで夜に放送されている映画を見るのですが、最近では途中でウトウトするようになってきてしまいました。休日はその分長く寝るようにしているのですが、なかなか改善しません。寄る年波には勝てないということでしょうか。

直営をささえる

仲間達（382）

浮島分会

××××

（××××××××）

①年　齢：58歳
②入庁年度：2001年度
③分会役：財政担当
④職　種：業務職
⑤業務内容：施設維持管理
⑥趣味、最近はまっている事：サッカー観戦（フロンターレ）、ライブ鑑賞（推しのアーティストはドリカム、SHISHAMO）

皆さん、こんにちは。浮島分会です。今回御紹介させて頂くのは、××××さんです。浮島埋立事業所に来て3年目を迎える仲間です。主に点検や槽内作業、整備等を担当していて、かなり古い設備が多く、劣化して痛んだ様々な機器設備を直してもらっています。そんな先輩がいてくれることで、私たちも助かっています。これからも頑張っていきたいとのことですので、よろしくお願いします。

分会だより 堤根分会 No.224

こんにちは、堤根分会です。いよいよ来年の1月12日で堤根処理センター焼却炉の火が完全に消える予定です。コロナ禍によって（新）橘処理センターで使用される機器の半導体が供給不足のため閉鎖がのびのびになっていましたが、コロナも終息に向かい（新）橘処理センターも10月8日から試運転を開始する予定となっております。昭和54年竣工から令和5年の現在まで、2回の大規模な施設整備工事や耐震補強工事等により施設の維持がされてきました。しかし、44年を越えて使用されてきた施設は老朽化が著しく、最近では、工事で直しても直ぐに同じ箇所でトラブルが発生し、緊急埋火を繰り返し収集や他センターの皆さんに、ご迷惑をおかけしております。このような施設ではありますが、施設の閉鎖も目前に迫り、焼却炉の休止に向けた準備を進めて行くと共に、運転計画外の休炉をもう招かぬよう職員が一丸となって、施設の維持・運転管理をしていきたいと思っていますので、残り少ない日々ですが、これからも堤根分会をよろしくお願いします。

▲センター内の花・果実（びわ）・樹木

分会だより 中原分会 No.225

みなさまこんにちは、中原分会です。今日は中原生活環境事業所の職場や分会活動を紹介していこうと思います。今年は6人の新入職員を迎え、直近の新入職員を合わせると16人となり、職場にフレッシュな風が吹いています。中でも昼休みにはスポーツに励み年齢の壁を越えて交流を深めています。業務面でも新しい取組として新人研修に力を入れ、年齢層の近い職員を教育担当とすることで、新人職員はもちろん、担当者もまた安全について再確認し、共に成長していけるような環境をめざします。また分会活動にも積極的に若年層職員も参加してもらい、次世代に繋ぐため下地づくりを始めています。これから厳しい夏を迎えますが、みなさん事故怪我なく体調にも気をつけ、乗り越えましょう。